

8月11日(月・祝)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ

日刊サマーミュージア

Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊



8/10 サマーナイト・ジャズ

© 平鑑平

フェスタサマーミュージアで毎年開催される人気のジャズ・プログラム、サマーナイトジャズ。ピアニスト&作編曲家として世界的に知られる宮本貴奈がピアノ&音楽監督を務める2025年バージョンは、“暑い時こそ熱いものを”という、夏バテを防ぐ極意として知られる言葉が思い出されるホットなものとなった。

第1部の口火を切ったのは、宮本が、小曽根真(p)から絶大な信頼を受ける小川晋平(b)と、超絶技巧と高い音楽性で人気の川口千里(ds)のふたりを迎えた、この日が初御目見えとなるトリオ。ブラジル音楽のグルーヴと日本的なメロディ感覚が溶け合った宮本のオリジナル「Rainbow」の煌びやかな演奏に大きな拍手が湧きあがる。その後ステージは、急速ワルツへと変貌を遂げた「サマータイム」、ボサノ



© 平鑑平

ヴァ・メドレーなどを経た後に、アニメ映画『BLUE GIANT』のサントラ演奏でも名高いサクソ奏者、馬場智章を加えてのカルテットへと発展。馬場のオリジナル「Low Altitude Flight」、さらに宮本がボーカルも担当するソウルフルな「Just the Two of Us」で最高潮を迎える。

インストを中心に構成された第1部に続く第2部は、福原みほとクリス・ハートというふたりのポップス系シンガーを迎えてのステージ。福原と宮本がデュエットする「スイングしなけりゃ意味ないね」で華やかにスタートした後は、福原のオリジナル「優しい赤」、ハートのオリジナル「I LOVE YOU」というふたりの代表曲などを経て、出演者総出の「You've Got a Friend」でエキサイティングなフィニッシュ。アグレッシブな演奏と熱いヴォーカル曲が、夏の暑さを上回るエネルギーを届けてくれた。

(音楽ライター 早田和音)



© 平鑑平

バックステージにて

ご来場者の声

宮本貴奈さんのプロデュースの音楽はいつも楽しみにしており、期待を裏切らないです。今回も充分パワフル！特に好きなクリス・ハートさんの歌声には泣けるほど嬉しかった。また次回も楽しみにしています。(60代・会社員・しー娘) / やっとサマーナイトジャズに来ることが出来、本当に来てよかったと思いました。ちょうど良い言葉がありませんが、本当にすばらしかったです。音響の意味でもミューザがすばらしいホールだという事を改めて感じました。(40代・経営者) / 外の雨を吹きとばすようなまさに夏・サマーにふさわしいホットでクールでかっこいい演奏でした。全てよかったのですがサクソスの大迫力に感動しました。何よりも良かったのが若い時から大好きな You' ve got a friend が聴けるとは…本当に楽しめました。ありがとうございます。(ゴン) / 毎年出演者がベテランから伸び盛りの若者まで多彩で大変楽しみにしています。(60代・無職) / 馬場智章さんの SAX 最高でした。生音も届いて震えました！！クリス・ハートの I Love You は涙、涙…よかったー(50代・会社員・こま) / 初めて聴く川口千里のドラムスは格好良かった。核となるピアノトリオに加え豪華なゲストによるサクソスやヴォーカルに大いに盛り上がった。今年も熱いサマーナイト・ジャズで、川崎の暑い夏を乗り切るぞ！！(60代・無職)

～ホールスポンサー（個人賛助会員）制度のご紹介～

みなさまからのあなたかご支援をよろしくお願いいたします。

■特典いろいろ■

- 1…チケットの先行予約 (主催公演対象、一部除外あり)※
- 2…チケット1割引 (主催公演・東豊公演、一部除外あり)※
- 3…提携施設等のご優待サービス※
- 4…プログラム等へのご芳名掲載
- 5…主催公演へのご招待、ホール銘板の掲出 (5万円以上)

詳細・お申込み



※友の会特典と同様

年会費 一口1万円から

会費は、寄付金として一定の要件の下で税制上の優遇措置の対象となります。

Webアンケート回答者限定 壁紙プレゼントキャンペーン

各公演のアンケートにWebでお答えいただいた方全員に、サマーミュージア特製オリジナル壁紙をプレゼント！

翌日発行予定！

『ほぼ日刊サマーミュージア』に
あなたのレビューが載るかも！？



アンケートの最後に「本日のひとこと感想」入力ページを設けております。よろしければ、ぜひ感想をお寄せください！！



聴いて、そして体感して♪



© 平館平

8月9日の「出張サマーミュージア@しんゆり！」は、小学校低学年から中学年を対象にした「みんなあつまれ！音の遊園地」。パシフィックフィルハーモニア東京と音楽監督の飯森範親が登場し、松本志のぶの親しみあるナビゲートで名曲の数々が披露された。

前半は、ロッシェニの歌劇『ウィリアム・テル』より「スイス軍の行進」で幕を開け、軽快なファンファーレで子どもたちの目を惹く。川崎市出身のヴァイオリニスト・鈴木舞も登場し、サラサーテ『カルメン幻想曲』を渋みと華麗さをたっぷりに演奏。



© 平館平

“幼少期、オーケストラと演奏するのが夢だった”というラヴェル「ツィガーヌ」

で卓越した技巧性をみせ、子どもたちの輝く眼差しを浴びた。

後半は歌劇の抜粋作品や各国の名曲をば。ヴェルディの歌劇『運命の力』序曲とマスカーニの歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』間奏曲は、ドラマチックな表現でオペラの魅力をちらみせ。スメタナ「モルダウ」とチャイコフスキー『くるみ割り人形』の色とりどりの音世界や、厚みの充分な音圧を放ったエルガー『威風堂々』第1番など、子どもだけでなく一度は作品に触れたことがあるだろう大人も熱い拍手を送っていた。

アンコールでは、観客の手拍子付きによる「ラデツキー行進曲」で会場が一体に。聴いて、そして体感して音楽を楽しむ——特別な夏のひとときであった。

(音楽ライター 栗田萌)



© 平館平

ご来場者の声

とてつもなく暑い夏。その週末の午後、自宅近くのコンサートホールで優雅な時間を過ごせ、至福のひとつでした。子どもたちも大人しくオーケストラの音に聴き入って、彼らにとっても貴重な時間であったと思います。(70代・主婦・Emiちゃん) / くるみわりにんぎょうが きいたことがあってよかった(7歳・こうき) / 小2、年長の息子と来ました。小2の息子が「聴いたことある！」と何度も言っていて、知っている曲が多く、子どもも楽しんでいました。私も久しぶりに、このような音楽を聴きに来てよかったです。(40代・会社員・ゆず) / 良いとこ取りの曲目。必ず一度はねむくなるクラシックコンサートなのに、このたびはそのようなことのないものでした。こういう選曲もいいです。鈴木舞さんすごいですね。ソリストってすごいですね。(70代・匿名) / たのしかったです！(6歳・小学生・うはな) / お子さん向けということもあり、いつもよりカジュアルに楽しむことができました。モルダウは大好きな曲なので、ブラハを思いながら楽しみました。パーカッションのお姉さんのおかげで、手拍子楽しかったです。(さゆり)



パートナーショップのご紹介

エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki



からだ喜ぶ、和のあじわい

フェスタサマーミュージアKAWASAKIも、いよいよフィナーレ。皆さま、コンサートの合間に川崎の街も楽しんでいただけましたか？

今回ご紹介する最後のパートナーショップは、川崎駅直結・ラゾーナ川崎プラザ4階にある「板前ごはん 音音」さんです。

いただいたのは「2種の焼魚御膳」(ご飯・味噌汁・小鉢・香の物付)。香ばしく

焼き上げられた鯖と銀だらに、白米(玄米も選べます)がよく合い、ボリュームも満点！ランチタイムでも予約可能なのも嬉しいポイントです。

コンサートの余韻を味わいながら、パートナーショップでも引き続きお楽しみください♪

(ゲストリレーションN)



2種の焼魚御膳(税込1,680円)



板前ごはん 音音

B

ラゾーナ川崎プラザ 4F



パートナーショップ特典

彩大名御膳をご注文で
ソフトドリンクサービス

※「優待チラシ」持参者のみ
※平日のランチタイム限定

フェスタサマーミュージア公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージア

で検索&投稿

お待ちしております！



X: @summer_muza



Facebook: @kawasaki.sym.hall



Instagram: @muzakawasaki



YouTube: @kawasakisymhall



皆様も、時にはコンサートをしつくりと見てみるのはいかがでしょう。(カメラマン・平館平)

こんにちは、カメラマンの平館です。「素敵な演奏を聴きながら仕事をするなんて良いですね」とよく言われますが、まさにその通り、私にとっては最高に素晴らしい仕事です。サマーミュージアは天国のような現場ですね！

ただし、実際に演奏される音がよく聴こえている、というわけではない事がほとんどです。舞台袖の小窓などホール空間の外から撮ることが多いことに加えて、「1楽章は舞台袖から指揮者のアップを撮って、2楽章は2階席からオルガン、最後は正面」と、慌ただしく走り回っているからです。(ミュージアは階段が多くて、大きなカメラや三脚を抱えての移動は大変です。汗)しかし、望遠レンズの先に映る音楽家の姿は本当に感動的です。「命の躍動の愛おしさ」とでも呼べるような、真剣に生きて打ち込むことの素晴らしさを、その眼差しや振る舞いからいつも学んでいます。写真からそんなことを感じてもらえたら嬉しいです。

ス
タ
ツ
フ
日
誌